

育児のすれ違い こうやって解決してみよう



育児の対立は、その相手や内容こそ違えど、どの家庭でも起こり得るごく一般的な現象です。育児の対立が生まれる主な理由には、育ってきた環境や価値観、親から受けた育児の経験の違いなど、さまざまな要因があります。ですから、相手と考え方が違うのは当然のことだと理解し、自分の考えだけを通すのではなく、育児を共にしている相手に感謝の気持ちを伝えることも大切です。以下の内容を参考にしながら、育児に関する対立を少しずつ解消していきましょう。

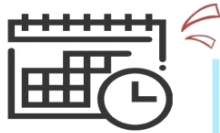
育児のすれ違い



基本的に、ママとパパの育児スタイルが異なる場合、多くの摩擦が生じがちです。また、育児を担ってくれる、あるいは手伝ってくれる第三の育児者がいる場合、その方との間でも育児に関する対立が起こることがあります。多くの場合、それは祖父母にあたる人が多いでしょう。食事のさせ方、寝かしつけ、お風呂、子どもにかけられるちょっとした言葉など、日常の些細な場面でも対立が生じることがあります。ですので、育児による衝突はごく自然なことだと受け入れる姿勢が大切です。しかし、子どもの前で言い争ったり、育児に関わる大人たちがそれぞれ異なる方針でバラバラに指示を出してしまうと、子どもが混乱してしまう恐れがありますので、その点は特に注意が必要です。

対立の解決方法

：時間の計画を立てること



育児に関わる人同士の役割分担や、その間に生じる対立の多くは、お互いの時間の使い方に対する不満から生まれることが少なくありません。そのため、先に述べたような夫婦間での育児の役割分担をする際には、それぞれの時間の使い方を確認してみる事が大切です。

1.夫婦それぞれの1日のスケジュールを確認してみましょう。



子どもの頃、夏休みの計画を立てるために時間割を作った経験がある方も多くでしょう。今、子どもが生まれた現在、自分の一日のスケジュールがどうなっているのかを夫婦それぞれで書き出してみ、お互いの時間の使い方を確認してみましょう。このとき、「誰がどれだけやっているか」に注目するのではなく、それぞれが得意なことを活かして、育児や家事を分担することがポイントです。また、一週間のうちに、それぞれが子どもと遊んだり、一緒に過ごす時間を計画しましょう。パートナーが子どもと過ごしている時間には、自分の時間（休息ややりたいことのための時間）として活用すると、心にも余裕が生まれます。

2.家族揃って食事の時間をもちましょう。



家庭の状況によって実現の可否は異なりますが、週に1~2回でも家族全員がそろって座る時間を持つことが大切です。小さな子どもにとっても、家族と一緒に食卓に座るといった経験そのものが重要です。子どもにごはんを食べさせることを「作業」として捉え、先に子どもだけを食べさせてから大人が別で食事をする家庭も多いですが、離乳食を始めた時期から「子どもにごはんを食べさせる時間=親も一緒に食事をする時間」と意識することが大切です。「食べさせること」よりも「一緒に食べること」を重視する考え方を持つことで、家族で食事を楽しむ時間が生まれ、子どもが自分で食べる習慣を育てる助けにもなります。

3.子供と1対1で向き合いコミュニケーションの時間を持つことが大切です。



特に共働きなどで子どもと過ごす時間が少ない親にとっては、子どもとの質の高いコミュニケーションの時間が必ず必要です。子どもとのコミュニケーションには、母親も父親も含まれます。そのため、仕事から帰宅した後の時間に、子どもと1対1でコミュニケーションをとる時間を一定確保し、子どもが好きな絵本を読んだり、マッサージをしながら話をする時間を持つことが望ましいです。